

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標1 自分らしく生き生きと活躍する「ひと」づくり

◆ASAGOiNGな人を育む

◎市民一人一人が自分らしく生き生きと活躍しながら「まち」とつながるASAGOiNGな人づくり

1 主体性・自己肯定感を育む場をつくる	1-1-1-1	こども育成課	学校教育課	総合政策課	市民協働課	生涯学習課
2 多様性を認め合う関係性づくりを進める	1-1-1-2	総合政策課	市民協働課	生涯学習課		
3 シビックプライドを育む機会をつくる	1-1-1-3	こども育成課	学校教育課	総合政策課	市民協働課	生涯学習課

◎市民一人一人が好きなこと・得意なことなどを地域社会で発揮し多様な活動を促進するひとづくり

1 市民一人一人の好きなこと・得意なことが地域活動とつながる機会をつくる	1-1-2-1	総合政策課	市民協働課			
2 人と人・地域・仕事をつなげる人を育む	1-1-2-2	市民協働課				

◆ASAGOiNGな仲間づくり

◎移住・定住の促進や関係人口の創出・拡大によるASAGOiNGな仲間づくり

1 移住・定住の取組を推進する	1-2-1-1	市民協働課				
2 関係人口を創出・拡大する	1-2-1-2	市民協働課	経済振興課			

◎結婚を希望する人の出会いの機会の創出

1 希望に応じた婚活を支援する	1-2-2-1	市民協働課				
2 自然な出会い、交流の機会をつくる	1-2-2-2	市民協働課				

◎移住者や在住外国人などの地域の受入れ体制の充実

1 移住前の地域の受入れ体制の充実を図る	1-2-3-1	市民協働課	人権推進課			
2 移住後の地域の受入れ体制の充実を図る	1-2-3-2	市民協働課	人権推進課			

◆一人一人の行動につなげる情報発信の充実

◎一人一人の行動につなげる情報発信の充実

1 多様な媒体による情報発信を充実する	1-3-1-1	秘書広報課				
2 市民自らが結果だけでなく現在進行形の情報発信する	1-3-1-2	秘書広報課	総合政策課	市民協働課		

基本目標2 魅力ある多様な「しごと」づくり

◆内発的な経済成長

◎市内企業で働く人材の確保

1 市内企業の情報発信を行う	2-1-1-1	経済振興課	市民協働課	総合政策課	学校教育課	
2 生き方や朝来市で働き・暮らすイメージを持つ	2-1-1-2	経済振興課	総合政策課	学校教育課		
3 市内企業への就職を推進する取組を支援する	2-1-1-3	経済振興課				

◎市内企業等の稼ぐ力の向上

1 企業の経営支援を行う	2-1-2-1	経済振興課				
2 起業しやすい環境をつくる	2-1-2-2	経済振興課	市民協働課			

◎誰もが安心して希望に応じたやりがいのある働き方の実現

1 誰もが安心して働くことができる環境をつくる	2-1-3-1	経済振興課	こども育成課	高齢福祉課		
2 多様な働き方を推進する	2-1-3-2	経済振興課				

◆交流人口拡大による経済循環活動の促進

◎朝来市の強みを生かした観光誘客の推進

1 観光資源を発掘する	2-2-1-1	観光交流課				
2 観光地としての魅力を発信する	2-2-1-2	観光交流課				

◎観光客一人当たりの観光消費額の拡大

1 周遊型観光を推進する	2-2-2-1	観光交流課				
2 滞在型観光を推進する	2-2-2-2	観光交流課				
3 観光受け入れ体制を強化する	2-2-2-3	観光交流課				
4 観光推進体制を強化する	2-2-2-4	観光交流課				

◎インバウンド観光の推進

1 訪日外国人旅行者の受け入れ体制づくりを行う	2-2-3-1	観光交流課				
-------------------------	---------	-------	--	--	--	--

◆儲ける農林畜産業への転換

◎農林畜産業の担い手の確保・育成

1 生業としての農林畜産業の担い手を確保・育成する	2-3-1-1	農林振興課				
2 農林畜産業に多様な人が多様な関わり方をする	2-3-1-2	農林振興課				

◎農業所得向上に向けた取組の推進

1 農産物の販路を拡大する	2-3-2-1	農林振興課				
2 農産物の高付加価値化を図る	2-3-2-2	農林振興課				

◎生産量拡大や作業負担軽減・低コスト化に向けた新たな農林畜産業の推進

1 生産量拡大や作業負担軽減のための設備・機械の導入拡大を推進する	2-3-3-1	農林振興課				
2 新技術の導入検討を行う	2-3-3-2	農林振興課				

◎森林の利活用の推進

1 林業の成長産業化を推進する	2-3-4-1	農林振興課				
2 森林が持つ公益的機能の増進を図る	2-3-4-2	農林振興課				

基本目標3 誰もが希望を持ち、心豊かに安心して暮らせる「まち」づくり

◆地域コミュニティを基盤とした誰にも居場所と役割のあるまちづくり

◎地域特性を生かした地域の主体的なまちづくりの推進

1 多様な主体による主体的・自律的な地域経営を推進する	3-1-1-1	市民協働課				
2 多様な主体による主体的・自律的な地域経営を支援する	3-1-1-2	市民協働課				

◎一人一人が地域とつながりを持ち安心して自分らしく暮らすことができる地域共生社会の実現

1 地域での多様なつながりの場をつくる	3-2-1-1	社会福祉課	高年福祉課	ふくし相談支援課		
2 地域で孤立しがちな方とのつながりをつくる	3-2-1-2	社会福祉課	高年福祉課	ふくし相談支援課		

◆誰もが安心して楽しく暮らせるまちづくり

◎在住外国人など多様な人が安心して暮らすことができる多文化共生社会の実現

1 在住外国人などの暮らしの困りごと等を把握する	3-2-2-1	人権推進課				
2 まちの情報を在住外国人に伝える	3-2-2-2	人権推進課				
3 在住外国人と地域の人のつながりをつくる	3-2-2-3	人権推進課				

◎誰もが生きがいを感じ健やかで幸せに暮らすことができる健康づくりの推進

1 健康づくりへの意識の向上を図る	3-2-3-1	健康づくり推進課				
2 疾病・介護予防や健康増進の取組を推進する	3-2-3-2	健康づくり推進課	ふくし相談支援課			

◆まちづくりや市民の暮らしを支えるための連携の強化

◎地域間連携・政策間連携などによる効果的・効率的な事業の推進

1 市内の多様な主体相互の連携による事業推進を展開する	3-3-1-1	市民協働課	学校教育課	経済振興課		
2 市外の多様な主体との連携による事業推進を展開する	3-3-1-2	総合政策課	観光交流課			

◎持続可能な地域公共交通による安心した暮らしの実現

1 多様な主体が連携・協働する	3-3-2-1	総合政策課				
2 新たな移動手段の導入・検討を進める	3-3-2-2	総合政策課				

◎市民の多様な活動や暮らしを支えるための公共施設の適正配置

1 暮らしや活動に応じた利用しやすい公共施設にする	3-3-3-1	総合政策課				
2 公共施設の持続可能な運営を行う	3-3-3-2	総合政策課				

◎生物多様性の保全と持続可能な利用による自然共生社会の実現

1 生物多様性について市民一人一人が理解を深め、意識を持ち生活する	3-3-4-1	市民課	文化財課	農林振興課	観光交流課	
-----------------------------------	---------	-----	------	-------	-------	--

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標1 自分らしく生き生きと活躍する「ひと」づくり

◆ASAGOiNGな人を育む

◎市民一人一人が自分らしく生き生きと活躍しながら「まち」とつながるASAGOiNGな人づくり

1 主体性・自己肯定感を育む場をつくる

■目標に向けたアクション体系

<p>1 子どもから大人まで多様な人や地域が互いにつながる場をつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> └ ①家庭や地域・学校などで自己肯定感を育む言葉かけ └ ②地域や学校などで多様な人との対話の場づくり └ ③子どもから大人までが体験・挑戦する機会づくり <p>2 自分の考えが認められたり、反映されたりする場をつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> └ ④地域や学校などで考えを発表・発信する機会づくり └ ⑤好きなこと・得意なことを地域や学校で発揮できる機会づくり
--

■取組状況と今後の予定

課名	令和4年度までの取組状況	現状やKPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
こども育成課	在園児の異年齢活動を通じて、主体的に活動できる教育・保育を実施した。また、保育教諭の部会において「主体性」をテーマに議論してきた。	コロナにより外部人材を園に招くことがなく、地域の人や地域の事を知る機会が非常に少なかった。教育に関しては、結果が出るまで長い時間を要するため、数年での評価は難しい。	コロナにより外部人材を園に招くことを控えていたが、再び地域人材の招へいなどにより、人とのつながりや体験につながる教育・保育を行う。また、園長会や副園長で構成する研修部会、保育教諭の各部会において、最新の情報を共有しながら取り組むべき内容を議論し、現場につなげていく。
学校教育課	自然体験、職場体験活動や地域行事への参加、伝統・文化・芸能体験など様々な体験教育に取り組んでいる。	自然体験、職場体験活動や農業体験、伝統・文化・芸能体験など様々な体験活動に取り組んだ。	引き続き、体験活動を充実させ、すべての児童生徒が達成感や成功体験等を得ながら学びへの意欲や自信につなげていく取組を進める。
総合政策課	市内高校にコーディネーターを配置し、地域で活躍する大人と連携した学びが定着している。和田山高校では地元企業と連携して商品開発にもつながった。	市民アンケート調査では、子どもから大人まで多様な学びの場が充実している市民の割合は低く、多様な市民に対応した多様な学びの場づくりが不足していると考えられる。	高校の授業における地域とつながる場づくりだけでなく、多様な市民に対応した多様な学びの場づくりや対話の場づくりを進めていくことが必要である。
市民協働課	全ての地域自治協議会のまちづくり計画の見直しを行うことに合わせ、住んでいる地域を大切に、誇りに思う気持ちを対話により育んできた。	コロナ禍において地域の事業展開に制限がかかったことにより目標値を下回っている。	コロナによる規制制限も解除されたため、見直されたまちづくり計画に基づき市民の参画を促進していく。
生涯学習課	市民講座では、じっくり学ぶ「定期コース」に加え、新しく学んでみようと思われる方が参加しやすいよう、少ない回数でチャレンジできる「トライコース」の講座を設け、実施した。	市民講座の受講後、講師補助として講座での学びを發揮する活動を行うなど、自主的・定期的に活動する自主運営講座・同好会活動への移行を促し、学びの場の充実、拡大を図る必要がある。	市民講座での学びを継続的な学びに繋げるため、引き続き、受講生による自主運営講座や同好会活動への移行を働きかけるなど学びの場の充実、拡大に繋げる。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標1 自分らしく生き生きと活躍する「ひと」づくり

◆ASAGOiNGな人を育む

◎市民一人一人が自分らしく生き生きと活躍しながら「まち」とつながるASAGOiNGな人づくり

2 多様性を認め合う関係性づくりを進める

■目標に向けたアクション体系

1 地域とつながり、知り、関わる機会をつくる

- └ ⑥誰もが集い、つながり、多様な価値を発信する場づくり
- └ ⑦テーマ・分野ごとに気軽に集い、つながる場づくり

■取組状況と今後の予定

課名	令和4年度までの取組状況	現状やKPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
総合政策課	あさご未来会議の開催により、誰もが気軽に集い、つながり、主体性を育む場づくりを行ったほか、「合言葉」をとおして、互いに応援しあえる雰囲気の醸成を図った。	あさご未来会議をはじめとして多様な人がつながる機会があり、新たな参画者があるものの、多様な場がないことで新たに参画する機会が少ない状況であると言える。	従来の方づくりに加え、多様な価値観やテーマ・分野に対応した参画の機会を多くつくる。
市民協働課	広く市民が参加できる形式で地域おこし協力隊の活動報告会を開催した。参加者が自由に対話できる場となった。	コロナ禍において地域の事業展開に制限がかかったことにより目標値を下回っている。	引き続き、多くの市民が参加し、対話による場づくりとなるよう工夫しながら取り組んでいく。
生涯学習課	誰もが自分の興味や関心のあることを活かすことができる学びの場として、市民講座や自主運営講座・同好会活動への参加募集を実施した。 また、活動の様子や学びの成果の展示、各種生涯学習に関する情報を市HP等を通して発信した。	幅広い年齢層の学びのニーズに対応するため、多様な学びの場を提供する方策について、様々な角度から検討していく必要がある。	幅広い年齢層に対し、より魅力ある学びの場を企画・運営し、市民講座の充実を図る。 市民の「学びたい」ニーズに応え得る人材を発掘し、マッチングに繋げる。 あらゆる年代の市民に情報提供できる発信手段を工夫する。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標1 自分らしく生き生きと活躍する「ひと」づくり

◆ASAGOiNGな人を育む

◎市民一人一人が自分らしく生き生きと活躍しながら「まち」とつながるASAGOiNGな人づくり

3 シビックプライドを育む機会をつくる

■目標に向けたアクション体系

<p>1 多様な人が集う機会をつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> └ ⑧地域や学校などで、多様な人との対話の場・体験の機会づくり └ ⑨学校と地域をつなぐコーディネート（学校と地域の連携） └ ⑩区・地域自治協議会などの地域行事への参加促進 └ ⑪子どもから大人までが地域行事などで役割を持つ <p>2 家族のつながりを大切にする</p> <ul style="list-style-type: none"> └ ⑫家族と過ごす時間を持つ

■取組状況と今後の予定

課名	令和4年度までの取組状況	現状やKPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
こども育成課	こども園評議員会を各園で開催し、地域の方や保護者と意見交換を行い、地域に根付いた園運営につなげている。	コロナにより地域人材を含めた人との交流が減少したが、一方で、家庭での時間が以前よりも増加したと考えられる。	地域や関係者から頂いた意見について、可能な限り現場に反映できるよう取り組んでいく。
学校教育課	地域に住む人々との交流や自然等に触れる体験をする特色ある学校づくり事業（あさごドリームアップ事業）に取り組み、ふるさと愛の醸成を図っている。	地域に住む人々との交流や自然等に触れる体験をする特色ある学校づくり事業（あさごドリームアップ事業）に取り組み、郷土愛の向上を図った。	引き続き、地域人材を活用した特色ある学校づくり事業に取り組み、ふるさととの豊かな自然や伝統文化、人々と触れ合う機会をつくっていく。
総合政策課	市内高校に地域をつなげるコーディネーターを配置し、授業やキャリアトークカフェ等で市内で活躍する人との対話等を通じて、朝来市での暮らしや企業の魅力を感じる機会づくりを進めた。	市内高校における取組は定着しつつあるものの、市内高校以外に通う高校生が多様な人となつがる機会が少ないことが課題である。	隣接する養父市や福知山市等と連携し、連携事業を展開するほか、市外の高校に通う生徒たちが参画できる場づくりを検討する。
市民協働課	市内全ての各地域自治協議会のまちづくり計画の見直しを行うことに合わせ、住んでいる地域を大切に、誇りに思う気持ちを対話により育んできた。	コロナ禍において地域の事業展開に制限がかかったことにより目標値を下回っている。	コロナによる規制制限も解除されたため、見直されたまちづくり計画に基づき市民の参画を促進していく。
生涯学習課	地域の人材や資源を活用し、地域の宝である子ども達を守り育てる活動として、各地域自治協議会の地域コーディネーター等が中心となる地域学校協働活動の実施に対し支援した。	子ども達の地域への愛着や健やかな成長に加え、地域コーディネーターをはじめとした自らの得意な分野を活かして地域で活躍できる人材の育成に繋がっている。	今後においても、活動機会の拡充や活動内容の充実を図ることができるよう、各地域自治協議会と連携強化し、地域学校協働活動を推進する。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標1 自分らしく生き生きと活躍する「ひと」づくり

◆ASAGOiNGな人を育む

◎市民一人一人が好きなこと・得意なことなどを地域社会で発揮し多様な活動を促進するひとづくり

1 市民一人一人の好きなこと・得意なことが地域活動とつながる機会をつくる

■目標に向けたアクション体系

1 多様な人がつながる場をつくる

└ ①地域やテーマ別など多様な対話の場づくり

2 参加しやすい場をつくる

└ ②誰もが参加できる場づくり（年齢・性別・開催時間など）

└ ③多様な手法によるつながる場の情報発信

■取組状況と今後の予定

課名	令和4年度までの取組状況	現状やKPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
総合政策課	令和4年度からオンライン版あさご未来会議を開催し、若年層や女性の参画が増える機会となった。また、市民ライター講座を開催し、女性が得意なこと・興味関心があることの学びの場の開催につなげることができた。	今までにない取組を展開することで、多様な新たな人の参画が増えるきっかけとなっている。	オンラインを活用した対話の場づくりを充実させるとともに、対話の人数規模やテーマなども考慮し、参画しやすい工夫を行う。
市民協働課	地域自治協議会の役員や事務局を対象にした研修会を開催し、これからの地域づくりにおける、誰もが参加できる対話の場づくりについて学ぶ機会を設けてきた。	地域づくりの学びの場は提供してきたものの、コロナ禍において地域の事業展開に制限がかかったことにより目標値を下回っている。	コロナによる規制制限も解除されたため、今後も引き続き対話の場を提供するとともに、内容もブラッシュアップしながら事業展開を図る。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標1 自分らしく生き生きと活躍する「ひと」づくり

◆ASAGOiNGな人を育む

- ◎市民一人一人が好きなこと・得意なことを地域社会で発揮し多様な活動を促進するひとづくり
- 2 人と人・地域・仕事をつなげる人を育む

■目標に向けたアクション体系

1 地域リーダーを育む

- L ④地域リーダー等の研修・講座の開催
- L ⑤若者が主体となって活躍できる場づくり
- L ⑥区・地域自治協議会等での次世代リーダーの育成・継承

■取組状況と今後の予定

課名	令和4年度までの取組状況	現状やKPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
市民協働課	人と人や人と地域をつなげる手法としてSNSを活用するための研修を開催し、地域リーダーの育成を図ってきた。	地域づくりの学びの場は提供してきたものの、コロナ禍において地域の事業展開に制限がかかったことにより目標値を下回っている。	コロナによる規制制限も解除されたため、今後も引き続き地域リーダー育成の場を提供するとともに、内容もブラッシュアップしながら事業展開を図る。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標1 自分らしく生き生きと活躍する「ひと」づくり

◆ASAGOiNGな仲間づくり

◎移住・定住の促進や関係人口の創出・拡大によるASAGOiNGな仲間づくり

1 移住・定住の取組を推進する

■目標に向けたアクション体系

1 移住・定住推進に向けた仕組をつくる

- L ①空き家バンク制度の充実
- L ②あさご暮らし体験住宅の活用
- L ③移住サポーターの取組の充実
- L ④あさご暮らしの魅力の発信

2 地域の主体的な取組を推進する

- L ⑤体験会の開催等の移住推進に向けた取組
- L ⑥空き家管理・清掃等空き家バンクと連携した取組
- L ⑦あさご暮らしの魅力の発信

■取組状況と今後の予定

課名	令和4年度までの取組状況	現状やKPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
市民協働課	<p>・あさご暮らし体験会の年3回程度の実施を継続している。ただし、R2及び3年度については、コロナ禍による中止、R4年度についても参加定員を絞るなどの影響があった。</p> <p>・都市部での移住イベントも単独出展のほか、但馬での共同出展や地域おこし協力隊募集と合同出展などにより相乗効果を図っている。</p> <p>・体験住宅入居中は、地元自治会との連携により、入居者支援や相談対応を行っている。</p>	<p>・コロナ禍による建築資材等の高騰及び消費税増税による新築控えなどがあり、R3年度は住宅補助を活用した移住者数が減少したが、R4年度は復調してきている。</p> <p>・都市部での大型移住イベントも対面開催に戻ったため、大阪・東京に出展し、移住相談件数の増加に繋がっている。</p> <p>・あさご暮らし体験会等体験・移住交流プログラムについても、R4年度は企画したものを中止することなく実施できたため、目標に達している。</p>	<p>・朝来市HP及び公式LINEでの新たな手法での活用により、移住相談や体験会参加申し込みのオンライン化、また移住に興味のある方に特化したLINE配信を新たに実施する。</p> <p>・コロナ禍による行動制限も解除されたことから、あさご暮らし体験会等の参加定員の増や、移住イベントへの移住サポーターへの協力、地域自治協議会等との連携などを再開し、あさご暮らしの魅力の発信を図る。</p>

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標1 自分らしく生き生きと活躍する「ひと」づくり

◆ASAGOiNGな仲間づくり

◎移住・定住の促進や関係人口の創出・拡大によるASAGOiNGな仲間づくり

2 関係人口を創出・拡大する

■目標に向けたアクション体系

1 地域を知り、つなげる機会をつくる

- └ ⑧体験会や対話の場など地域・人・活動の魅力を伝える場づくり
- └ ⑨朝来市出身者等とSNSなどをとおしてつなげる仕組みづくり
- └ ⑩大学生等との対話の場づくり
- └ ⑪多様な人が参加できる地域活動や地域の魅力の発信

2 地域の活動を応援する仕組みをつくる

- └ ⑫ふるさと納税を活用した体験・交流プログラムづくり
- └ ⑬企業寄付金などを活用した基金の検討

■取組状況と今後の予定

課名	令和4年度までの取組状況	現状やKPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
市民協働課	<p>・あさご暮らし体験会の年3回程の実施を継続している。ただし、R2及び3年度については、コロナ禍による中止、R4年度についても参加定員を絞るなどの影響があった。</p> <p>・神戸学院大学からのインターシップの受け入れや、芸術文化観光専門職大学との連携事業を実施し、移住者や起業者、区長等にヒアリングを行った。</p> <p>・市HPで年3組の移住者ロングインタビューの掲載を継続している。</p>	<p>・コロナ禍による建築資材等の高騰及び消費税増税による新築控えなどがあり、R3年度は住宅補助を活用した移住者数が減少したが、R4年度は復調してきている。</p> <p>・都市部での大型移住イベントも対面開催に戻ったため、大阪・東京に出展し、移住相談件数の増加に繋がっている。</p> <p>・あさご暮らし体験会等体験・移住交流プログラムについても、R4年度は企画したものを中止することなく実施できたため、目標に達している。</p>	<p>・朝来市HP及び公式LINEでの新たな手法での活用により、移住相談や体験会参加申し込みのオンライン化、また移住に興味のある方に特化したLINE配信を新たに実施する。</p> <p>・コロナ禍による行動制限も解除されたことから、芸術文化観光専門職大学との連携事業について、KOUBAを会場に地域住民や観光客が参加できるイベントを実施する。</p>
経済振興課	<p>牛肉やお米、岩津ねぎ等の市内特産品に加え、フォレストアドベンチャーや温泉施設、ゴルフ場やグランピング施設など、本市の自然を満喫できるアクティビティ型の返礼品の追加に努め、ふるさと納税額の増額に加え、食だけでない本市の魅力発信に注力する。</p>	<p>体験型返礼品として、アクティビティやグランピング施設、宿泊施設などのコンテンツは充実してきており、一定の申込も得られている。しかしながら、体験・交流プログラムづくりの観点で言えばまだKPIとしては達成できている状況とは言えないため、今後取り組んでいく。</p>	<p>他市町の事例などを参考に、寄附者の方に、朝来市を訪れていただくだけでなく、返礼品提供事業者や朝来市民の方、行政職員と交流いただけるような機会を創出し、まちや特産品の魅力をより深く体感いただけるような取組を研究する。</p>

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標1 自分らしく生き生きと活躍する「ひと」づくり

◆ASAGOiNGな仲間づくり

◎結婚を希望する人の出会いの機会の創出

1 希望に応じた婚活を支援する

■目標に向けたアクション体系

1 結婚を希望する人が出会う機会をつくる

- └ ①婚活イベントなど結婚を希望する人の出会いの場づくり

2 結婚を希望する人をつなげる仕組みを充実させる

- └ ②婚活事業の実施主体間の情報共有
- └ ③婚活イベントや支援の仕組みなどの広報の充実

■取組状況と今後の予定

課名	令和4年度までの取組状況	現状やKPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
市民協働課	<ul style="list-style-type: none"> ・JR利用やまち歩きを組み合わせた、楽しみながら参加できるイベントを実施した。 ・市の婚活担当と社会福祉協議会の結婚相談員との情報共有会議を、毎年複数回実施している。 ・市主催の婚活イベントに結婚相談員に参加いただき、参加者からの相談を受けたり、結婚相談所登録のPRを行った。 ・社会福祉協議会主催の婚活イベントに助成した。 ・イベント前などに自身のレベルアップ、または婚活等に役立つ内容のセミナーを開催した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・婚姻数については、コロナ禍において、出会いの場の機会の減少や結婚時期の延期などの理由により、朝来市のみならず全国的に減少している。 ・イベント開催回数については、R4年度は中止せずに実施でき、目標を達成している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・イベント広報について、フリーペーパー掲載のほかLINE配信などSNS利用による広報を充実させる。 ・婚活イベント実施に興味がある団体向けに、助成事業の利活用について説明の機会を設ける。 ・社会福祉協議会結婚相談員等とも連携を図り、イベント後のフォローの充実を図る。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標1 自分らしく生き生きと活躍する「ひと」づくり

◆ASAGOiNGな仲間づくり

◎結婚を希望する人の出会いの機会の創出

2 自然な出会い、交流の機会をつくる

■目標に向けたアクション体系

1 趣味やスポーツのつながりから出会う機会をつくる

- └ ④趣味・テーマごとの対話の場づくり
- └ ⑤レクリエーションスポーツ大会の開催

2 仕事のつながりから出会う機会をつくる

- └ ⑥職場間交流や異業種交流などの交流の場づくり

■取組状況と今後の予定

課名	令和4年度までの取組状況	現状やKPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
市民協働課	<ul style="list-style-type: none"> ・JR利用やまち歩きを組み合わせた、楽しみながら参加できるイベントを実施した。 ・R3年度までコロナ禍で中止していた市ソフトボール大会などのレクリエーションスポーツ大会をR4年度は実施した。 ・婚活イベント実施の際に、婚活事業に理解のある市内企業にチラシを送付し、従業員への周知を依頼した。 ・出会いの場イベント実施場所についても、市内施設等を利用し、気軽に参加できるように努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・婚姻数については、コロナ禍において、出会いの場の機会の減少や結婚時期の延期などの理由により、朝来市のみならず全国的に減少している。 ・イベント開催については、R4年度は中止せずに実施でき、目標を達成している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・趣味やスポーツを通じた出会い・交流の場の実施・広報について、生涯学習推進員、スポーツ推進員等に説明し、連携する。 ・出会いの場イベント実施に興味がある企業向けに、助成事業の活用について説明の機会を設ける。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標1 自分らしく生き生きと活躍する「ひと」づくり

◆ASAGOiNGな仲間づくり

◎移住者や在住外国人などの地域の受入れ体制の充実

1 移住前の地域の受入れ体制の充実を図る

■目標に向けたアクション体系

1 地域情報を把握する

- L ①区・地域自治協議会等の組織や行事の把握
- L ②暮らしに関する情報の把握
- L ③地域の個人・団体・グループ等の活動の把握
- L ④地域の個人・団体・グループ等の活動に参加する仕組みの把握

2 移住希望者等へ地域情報を発信する

- L ⑤多様な媒体を活用した発信
- L ⑥ターゲットやテーマを絞った発信

3 地域で移住推進・受け入れに対する機運を高める

- L ⑦移住者等とマッチングするための地域ニーズの把握・共有
- L ⑧在住外国人受入れの出前講座の開催

■取組状況と今後の予定

課名	令和4年度までの取組状況	現状やKPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
市民協働課	<ul style="list-style-type: none"> ・移住希望者や体験住宅入居希望者と、区長始め地域住民との事前面談を実施している。 ・自治協議会の掲示板に空き家バンク物件情報を掲示いただいたほか、地域において空き家所有者からの相談を受けた場合、市役所に繋いでいただいている。 ・地域おこし協力隊の受け入れについて、受け入れ希望の自治協議会を巡る事前体験会を実施し、プレゼン方式での採用としている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・移住者交流会については、大人数となることが予想されたため、行動制限の最中でもあり、R4年度も開催を見送った。 ・コロナ禍においては、自治会での面談参加人数などを絞り、距離を保つての実施となり、地域等との繋がりが作りにくかったと思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・希望する地域自治協議会単位で、おためし協力隊の受け入れを実施する。 ・朝来市HP及び公式LINEでの新たな手法での活用により、移住相談や体験会参加申し込みのオンライン化、また移住に興味のある方に特化したLINE配信を新たに実施する。
人権推進課	<p>新型コロナウイルス感染拡大により、在住外国人受け入れのための出前講座が開催できなかった。</p>	<p>新型コロナウイルス感染拡大により、在住外国人受け入れのための出前講座が開催できなかった。</p>	<p>在住外国人受け入れをはじめ、多文化共生社会をテーマにした講座を市の出前講座として登録する。</p>

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標1 自分らしく生き生きと活躍する「ひと」づくり

◆ASAGOiNGな仲間づくり

◎移住者や在住外国人などの地域の受入れ体制の充実

2 移住後の地域の受入れ体制の充実を図る

■目標に向けたアクション体系

1 移住者や在住外国人と地域住民がつながる機会をつくる

- └ ⑨移住者や在住外国人の情報の把握・地域住民相互の共有
- └ ⑩移住者や在住外国人と地域住民との対話の場づくり
- └ ⑪移住者や在住外国人と地域住民との交流の場づくり
- └ ⑫移住者や在住外国人と地域をつなぐコーディネーターの育成
- └ ⑬移住者や在住外国人の困りごとなどが集まり解決するシンクタンクの役割を地域でつくる

■取組状況と今後の予定

課名	令和4年度までの取組状況	現状やKPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
市民協働課	<ul style="list-style-type: none"> ・移住希望者や体験住宅入居希望者と、区長始め地域住民との事前面談を実施している。 ・地域のイベント等について、移住者や2地域居住者にも声かけを行い、参加を募っていた。 ・移住者が地域でイベントを行う際に、地域住民を紹介し、協力いただいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・居住年数が短いほど、住みやすいと思っている割合が低く、コロナ禍に移住された方は、地域等との対話の場も少なく、繋がりが作りにくかったためと思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・移住者等が所属する団体がイベント等を開催する際に、地域の情報を提供し、相談先等を紹介する。 ・地域のイベント等について、移住者や2地域居住者にも参加いただけるよう、地域自治協議会を通じて声かけを依頼する。
人権推進課	<ul style="list-style-type: none"> 在住外国人を対象とした日本語教室を開催することにより、生活支援と市民（支援ボランティア）との交流を続けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染拡大により交流事業などが実施できない状況であった。 	<ul style="list-style-type: none"> 在住外国人のニーズを把握し地域社会で共有し、NPOなどを含め市民として互いに支援できる仕組みにつなげる。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標1 自分らしく生き生きと活躍する「ひと」づくり

◆一人一人の行動につなげる情報発信の充実

◎一人一人の行動につなげる情報発信の充実

1 多様な媒体による情報発信を充実する

■目標に向けたアクション体系

1 欲しい情報がすぐにキャッチできるように発信する

- L ①検索しやすい情報の発信
- L ②ウェブサイト閲覧者の情報を把握・分析し発信方法を改善
- L ③誰にでも分かりやすい広報媒体の作成

2 届けたい人に届くように情報を発信する

- L ④年齢に応じた多様な情報発信
- L ⑤多言語対応した情報発信
- L ⑥ターゲットやテーマを絞ってSNSなどを活用した情報発信

■取組状況と今後の予定

課名	令和4年度までの取組状況	現状やKPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
秘書広報課	市公式ホームページの更新及び公式ラインにセグメント配信機能を付加した。	セグメント配信は、子育て施策やゴミ収集日の情報など欲しい情報のみを取得できるため、情報を確実に確認できることから好評を得ている。	ラインの存在やセグメント機能を御存知ない方がおられることから、広報やホームページ、フォーラムなどの人が集まる場において周知する。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標1 自分らしく生き生きと活躍する「ひと」づくり

◆一人一人の行動につなげる情報発信の充実

◎一人一人の行動につなげる情報発信の充実

2 市民自らが結果だけでなく現在進行形の情報を発信する

■目標に向けたアクション体系

1 コミュニケーションにより情報を発信する

- L ⑦多様な人との対話の場づくり
- L ⑧テーマごとの集いの場・対話の場づくり
- L ⑨人の動き・考えなどを伝える

2 多様な媒体により情報を発信する

- L ⑩情報発信手法を学ぶ講座開催
- L ⑪情報リテラシーを学ぶ機会づくり
- L ⑫多様な主体が現在進行形の動きを発信

■取組状況と今後の予定

課名	令和4年度までの取組状況	現状やKPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
秘書広報課	まちづくりの課題をテーマ設定した「市民フォーラム」の開催や子育て世代などの人をターゲットにした「ふれあいトーク」を開催した。	市民の声は、施策形成を行う上で必要な情報であり、左記の取り組みを実施しているが、発言者の偏り等があることからキメ細かな対応が求められる。	よりキメ細かく意見を聴取するために区単位で地域に出向く「ふれあい市長室」を実施するとともに、パブリックコメントは先進自治体の例も参考にしながら改善を図る。
総合政策課	令和4年度には市民ライター講座を2回開催し、発信力を高める学びの場を開催するとともに、市民が主体的に発信する動機付けを行った。	SNSを活用し市民自らが様々なことを発信することは広がっている中で、まちの魅力やまちの動きの発信につなげていくことが必要である。	市民自らがまちの魅力やまちの動きを発信していくことの楽しさを感じられるしかけづくりを行い、市民の主体的な発信を促進する。
市民協働課	スマートフォンの通信アプリ「LINE」を使った地域の情報発信手法について研修を開催した。また、地域おこし協力隊の活動を紹介する動画を配信している。さらに、地域自治協議会の会議をオンラインで開催する等の工夫に努めてきた。	現時点で目標値に達成しているので引き続き事業を展開していく。	現時点で目標値に達成しているので引き続き事業を展開していく。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標2 魅力ある多様な「しごと」づくり

◆内発的な経済成長

◎市内企業で働く人材の確保

1 市内企業の情報発信を行う

■目標に向けたアクション体系

<p>1 多様な手法により市内企業の情報を発信する</p> <ul style="list-style-type: none"> └ ①広報紙やウェブサイトを活用した市民や親世代向けの情報発信 └ ②SNSなどを活用した高校生・大学生・移住者向けの情報発信 └ ③大学生・移住者向けの企業説明会などの対面型の情報発信 <p>2 市内企業の魅力を伝える場をつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> └ ④市民や親世代へ伝える場づくり └ ⑤小・中学生へ伝える場づくり（トライやるウィークなど） └ ⑥高校生へ伝える場づくり（対話の場、しごとゼミなど） └ ⑦大学生へ伝える場づくり（対話の場など） └ ⑧移住者やUターン者などへ伝える場づくり（対話の場など） <p>3 企業と就職希望者とのマッチングを推進する</p> <ul style="list-style-type: none"> └ ⑨就職希望者への伴走型支援（ジョブサポあさごなど）

■取組状況と今後の予定

課名	令和4年度までの取組状況	現状やKPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
経済振興課	市内高等学校においては、キャリア教育の一環として、しごとゼミに対する期待が高く、カリキュラムとして定着している感がある。コロナ禍において、一部オンラインに切り替えたが、学校、企業双方とも対面実施の希望が強い。	コロナ禍以降、概ね25事業所程度の協力で、仕事ゼミやを実施しているが、生徒のキャリア教育と市内事業所の人材確保に資する規模として、現状の事業は、適正であると考えている。また、市内事業所の魅力発信ツールとしてジョブサポあさごの掲載企業の増加に引き続き努めたい。	生徒数が減少していく中、学校と企業、双方に資する事業として、適切な規模感をもって実施したい。
市民協働課	移住イベント等の際に「ジョブサポあさご」や企業説明会、新規就農支援制度の説明なども行い、希望内容により各担当課に繋いでいる。	移住希望者等への情報発信については、各種機会を捉えて行っているが、コロナ禍の影響で、仕事関係の異動が減少している。	公式LINEのセグメント配信などでも、仕事関係情報を発信していく。移住希望者の朝来市来訪時に会社訪問などを組み合わせられるよう、各担当課と連携を図る。
総合政策課	市内高校でキャリアトークカフェを開催し、魅力ある市内企業や働き方を知る機会づくりを行っており、実際に、キャリアトークカフェをきっかけに、インターンシップへ参加、就職とつながりはじている。	キャリアトークカフェ等をきっかけに市内企業への就職へつながりはじめており、本事業の継続は必要である。しかしながら、市外の高校へ通う高校生へ市内企業の魅力を伝える対話の場がない。	朝来市から八鹿高校へ通う生徒数が多いことを踏まえ、養父市と連携し、八鹿高校でのキャリアトークカフェの開催に向けて働きかける。
学校教育課	トライやる・ウィーク推進事業により、職場体験、勤労生産活動とおして、地域に学び、感謝の心を育むことができた。新型コロナウイルス感染症の影響で日数の変更や時期の変更もあったが、対策を取りながら実施できるようになってきた。	トライやる・ウィーク推進事業により、職場体験、勤労生産活動を通して、地域に学び、感謝の心を育むことができた。	引き続き、兵庫型「体験教育」として継続実施し、社会と関わる活動に取り組んでいく。また、特色ある学校づくり事業（あさごドリームアップ事業）を活用しながらキャリア教育の一環として実施していく。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標2 魅力ある多様な「しごと」づくり

◆内発的な経済成長

◎市内企業で働く人材の確保

2 生き方や朝来市で働き・暮らすイメージを持つ

■目標に向けたアクション体系

<p>1 市内で活躍する多様な人との出会いの場をつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> └ ⑩学校での出会いの場づくり（キャリアトークカフェなど） <p>2 市内企業の仕事の魅力を体験する場をつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> └ ⑪中学生が体験する場づくり（トライやるウィークなど） └ ⑫高校生・大学生等が体験する場づくり（インターンシップなど）
--

■取組状況と今後の予定

課名	令和4年度までの取組状況	現状やKPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
経済振興課	市内事業所においては、特に若手従業員の確保に困難を来しており、本事業に対する期待感は非常に強い。事業所による本気の取組みにより、しごとゼミの事業効果の一層の向上を見込むことができ、来年度以降も、事業所や高等学校の意向も踏まえながら、効果的な事業実施に繋がりたい。	自然減と社会減に伴う生産年齢人口の減少は、市内事業所の人手不足に拍車をかけており、人材の確保は官民双方の喫緊の課題である。市内の魅力ある事業所の気づきということ踏まえると、現状の事業規模が適正であり、今後も学校、生徒と企業の調整をしつつ、丁寧な事業実施を図りたいと考えている。	多くの市内事業所が人手不足の状況にある中、特定の業種、事業所に偏ることなく、生徒のキャリア教育と、市内事業所の魅力発信に努めたい。
総合政策課	高校生のキャリアトークカフェやしごとゼミを経て、具体的に働くイメージを得るため、実践的なインターンシップの受入を行った。大学生のインターンシップも受け入れている。	和田山高校や連携する大学などが持つインターンシップの取組に応じた受入だけでなく、インターンシップを希望する高校生や大学生が所属する学校に関係なく体験できる機会がない。	高校生や大学生などインターンシップを希望すれば、誰もがインターンシップを体験できる機会を検討する。
学校教育課	トライやる・ウィーク推進事業により、職場体験、勤労生産活動を通して、地域に学び、感謝の心を育むことができた。新型コロナウイルス感染症の影響で日数の変更や時期の変更もあったが、対策を取りながら実施できるようになってきた。	トライやる・ウィーク推進事業により、職場体験、勤労生産活動を通して、地域に学び、感謝の心を育むことができた。	引き続き、兵庫型「体験教育」として継続実施し、社会と関わる活動に取り組んでいく。また、特色ある学校づくり事業（あさごドリームアップ事業）を活用しながらキャリア教育の一環として実施していく。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標2 魅力ある多様な「しごと」づくり

◆内発的な経済成長

◎市内企業で働く人材の確保

3 市内企業への就職を推進する取組を支援する

■目標に向けたアクション体系

1 就職を促す取組を行う企業を支援する

- └ ⑬若手社員の奨学金返還を支援する市内企業への財政支援

■取組状況と今後の予定

課名	令和4年度までの取組状況	現状やKPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
経済振興課	若手従業員の確保に苦慮する市内事業所において、負担軽減制度を設けることが、採用時の福利厚生面におけるPRや、離職率の低下に繋がることを継続的に周知する。	市内事業所における新卒就業者数は目標値を若干下回っている状況にある。都市部における旺盛な採用活動により、地方の事業所は人材確保に困難を来している。	当該事業を実施する事業者を広く周知するため、就活サポートブックや、二十歳の集いでのPR、SNSでの発信に努めた。今後も特にZ世代への訴求を強化するため、SNSを中心としたツールに注力する。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標2 魅力ある多様な「しごと」づくり

◆内発的な経済成長

◎市内企業等の稼ぐ力の向上

1 企業の経営支援を行う

■目標に向けたアクション体系

1 後継者育成・事業承継の支援を行う

- └ ①商工会や金融機関と連携した支援の展開
- └ ②後継者育成・事業承継マインドを醸成する対話・学びの場づくり

2 設備拡大の支援を行う

- └ ③情報収集・情報提供等による伴走型支援
- └ ④設備拡大のための財政支援
- └ ⑤市内企業の規模拡張・企業誘致に向けた整備検討等

3 新分野進出の支援を行う

- └ ⑥情報収集・情報提供等による伴走型支援
- └ ⑦新分野進出のための財政支援

■取組状況と今後の予定

課名	令和4年度までの取組状況	現状やKPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
経済振興課	あさご元気産業創生センターにおいて、市内企業からの様々な相談の対応や補助を受けるために必要となる計画の策定の支援を行う。	コロナ禍においてコロナ関連補助金の相談件数が増加していたが、こうした相談は徐々に減少した。	今後も市内企業からの相談対応や計画策定支援を行いつつ、起業・第2創業の支援を行う。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標2 魅力ある多様な「しごと」づくり

◆内発的な経済成長

◎市内企業等の稼ぐ力の向上

2 起業しやすい環境をつくる

■目標に向けたアクション体系

1 起業マインドを育む機会をつくる

- └ ⑧起業の魅力の情報発信
- └ ⑨起業者との対話・交流の場づくり

2 起業を支援する

- └ ⑩起業セミナーの開催など学びの場づくり
- └ ⑪起業前から起業後まで切れ目ない伴走型支援
- └ ⑫起業を応援する財政支援
- └ ⑬コワーキングスペースやインキュベーション施設など活動拠点の提供

■取組状況と今後の予定

課名	令和4年度までの取組状況	現状やKPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
経済振興課	にぎわい創出支援事業等、各種補助事業や元気産業創生センター、市商工会との連携により、多様な事業者の起業に努めた。	コロナ禍にあつて、特に飲食、宿泊等サービス業が深刻な影響を及ぼしたことから、創業者数は目標を下回る件数にとどまった。今後、withコロナ下にあつて、適切な支援により創業件数の回復に努めたい。	各種補助事業や相談支援機関との連携の下、起業後も継続する伴走型により適切な支援に努めたい。
市民協働課	・ 起業人財交流館KOUBAを運営しており、R4年度については前入居者が独立退去したあと、年末から年度末にかけて3組3人の入居があつた。 ・ KOUBAを会場に、芸術文化専門職大学との連携事業を実施し、若者や移住起業希望者との対話・交流イベントを実施した。	・ KOUBAにも新しく3組が入居し、特に女性の起業や若者世代と起業者との交流が図れた。	・ KOUBAを会場に、あさご元気産業創生センターの起業セミナーを行い、KOUBAの広報及び起業者との交流を図る。 ・ KOUBAと専門職大学との連携事業に竹田地域とも連携し、地域住民や観光客にも地方での起業の魅力を発信する。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標2 魅力ある多様な「しごと」づくり

◆内発的な経済成長

◎誰もが安心して希望に応じたやりがいのある働き方の実現

1 誰もが安心して働くことができる環境をつくる

■目標に向けたアクション体系

1 若者が働きやすい環境をつくる

- └ ①労働時間など若者の働く価値観に応じた就業環境づくり
- └ ②働きながら資格や技術などが習得できる仕組みづくり

2 女性が働きやすい環境をつくる

- └ ③子育てしながらでも働きやすい企業の就業環境づくり
- └ ④女性が働きやすくするための市内企業の就業環境の発信
- └ ⑤市内の保育環境の充実

3 高齢者が働きやすい環境をつくる

- └ ⑥再就職に向けた支援
- └ ⑦シルバー人材センターと連携した高齢者の就業支援

4 外国人が働きやすい環境をつくる

- └ ⑧起業や地域と連携した生活支援を含めた受入れ体制づくり

■取組状況と今後の予定

課名	令和4年度までの取組状況	現状やKPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
経済振興課	市内事業所における人手不足感は強く、子育て中の女性と短時間、少日数で勤務できる市内事業所とのマッチングイベントや、働きやすい職場づくりのためのセミナーを継続して実施してきた。これら取組み等により本市における女性の就業率は県や全国の平均に比べ高く、さらに上昇傾向にある。	各種取組みや、こども園整備等による子育てしやすい環境により、市内の女性就業者比率は上昇傾向にある。更なる潜在労働力の掘り起こしのため、働く場だけでなく多方面からのアプローチを継続して実施する必要がある。	今後、デジタル人材のニーズがますます高まることを踏まえ、デジタルマーケティング人材の育成支援事業や、㈱リクルートとの連携により市内事業所の求人情報のデジタル化に取り組む。
こども育成課	公立こども園7園、私立保育所2園、私立こども園4園、公立学童クラブ9施設、私立学童クラブ3施設を開設している。私立やなせ学童はR3から新規開設。また、R2年11月から山東生涯学習センター3階を、R3から朝来生涯学習センター1階を日曜日に開放している。さらに、R5.2からファミリー・サポート・センター事業を開始した。	放課後児童クラブは、公立9箇所、私立3箇所となり、目標値は達成できている。病児保育設置箇所数は、看護師の確保状況により変動するが、令和4年度末では2施設の開設となっている。	公立私立こども園、私立保育所及び公立私立の学童施設は、現況のまま運営を行っていく。病児保育設置箇所数は、取り組む私立施設に補助金にて運営を支援していく。また、放課後子ども教室について、あり方等の研究を行う。
高年福祉課	シルバー人材センターへの補助を実施したほか、活動内容を掲載した広報誌の全戸配布を支援し、高齢者の就業機会等について広報を行った。	通常の広報誌のほかに、愛称募集や就業募集等のチラシの全戸配布を支援した結果、会員数及び受注件数ともに増加した。	元気な高齢者が地域社会の課題解決の担い手となって活躍するシルバー事業を支援する観点から、引き続き、シルバー人材センターへの補助を実施するほか、広報誌等の全戸配布を支援するなど、会員数及び就業機会の拡大に協力する。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標2 魅力ある多様な「しごと」づくり

◆内発的な経済成長

◎誰もが安心して希望に応じたやりがいのある働き方の実現

2 多様な働き方を推進する

■目標に向けたアクション体系

- 1 企業の意識改革と多様な働き方ができる仕組みをつくる
 - └ ⑨短時間労働や副業（複業）などの仕組みづくりを支援
 - └ ⑩短時間労働や副業（複業）希望者と企業とのマッチング
- 2 市民の意識改革を行う
 - └ ⑪多様な生き方・働き方があることを伝える情報発信
 - └ ⑫多様な生き方・働き方の魅力を伝える場づくり

■取組状況と今後の予定

課名	令和4年度までの取組状況	現状やKPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
経済振興課	子育て中の女性と短時間、少日数での勤務が可能な企業とのマッチングイベント、お仕事大相談会や、これからの時代に必要な働く女性のためのスキルアップ講座を実施してきた。	マッチングイベント「お仕事大相談会」や各種セミナーは、市内事業者、働きたい女性の関心も高く、一定の事業効果をあげている。	市内事業所、働きたい女性とともに、マッチングイベントへのニーズは高いことから、継続して実施するとともに、多様な生き方や働き方を提案する事業として、女性デジタル人材の育成支援事業を実施する。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標2 魅力ある多様な「しごと」づくり

◆交流人口拡大による経済循環活動の促進

◎朝来市の強みを生かした観光誘客の推進

1 観光資源を発掘する

■目標に向けたアクション体系

1 体験型観光を推進する

- L ①歴史体験プログラムの開発・実施
- L ②自然体験プログラムの開発・実施
- L ③農業体験プログラムの開発・実施

■取組状況と今後の予定

課名	令和4年度までの取組状況	現状やKPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
観光交流課	市内にある観光体験素材のコンテンツを掘り起こし、旅行エージェントにPRするための体験型素材集（掲載プログラム数31）を作成した。	新たな体験プログラムの掘り起こしが進んでおらず、目標値の達成が難しい状況である。	新たな主体と連携を図り、新しいコンテンツの開発を進める。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標2 魅力ある多様な「しごと」づくり

◆交流人口拡大による経済循環活動の促進

◎朝来市の強みを生かした観光誘客の推進

2 観光地としての魅力を発信する

■目標に向けたアクション体系

1 多様な手段により情報を発信する

- └ ④ウェブサイト・SNSなどを活用した観光資源の発信
- └ ⑤観光キャンペーンを活用した情報発信
- └ ⑥テレビ等のメディアを活用した情報発信
- └ ⑦マーケティングを意識した観光プロモーションの展開
- └ ⑧映画・ドラマのロケ地誘致活動

2 複合的な情報発信を展開する

- └ ⑨観光資源をつなぐストーリーを活用した情報発信
- └ ⑩異分野を組み合わせた情報発信（食×歴史など）

■取組状況と今後の予定

課名	令和4年度までの取組状況	現状やKPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
観光交流課	ウェブサイト・SNS、テレビ等のロケ地を誘致・受入をし、二次波及効果によるPRにつなげた。	各種メディアでの情報発信の回数は、多様な手段を活用した結果、目標値に近づいている。	引き続き、ウェブサイト・SNSをはじめ、多様な手段を活用して情報発信を行う。また、積極的に映画等のロケ地を誘致・受入をすることで、市のPRにつなげる。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標2 魅力ある多様な「しごと」づくり

◆交流人口拡大による経済循環活動の促進

◎観光客一人当たりの観光消費額の拡大

1 周遊型観光を推進する

■目標に向けたアクション体系

1 多様なストーリーで地域資源をつなげる

- ①モデルコースの設定、整備、情報発信

2 二次交通の充実を図る

- ②天空バス・タクシーの活用推進
- ③サイクリングの活用推進

■取組状況と今後の予定

課名	令和4年度までの取組状況	現状やKPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
観光交流課	スタンプラリーを実施し、市内の観光スポットの周遊を促した。 サイクリング拠点を整備し、レンタサイクルの実施やサイクリングのモデルコースを設定し、サイクリング観光の推進を行った。	着地型観光商品の販売促進など、観光消費額の増加に繋がる取組を行う必要がある。	引き続き市内を周遊し観光消費を促すような商品の販売、イベントの実施などを行う。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標2 魅力ある多様な「しごと」づくり

◆交流人口拡大による経済循環活動の促進

◎観光客一人当たりの観光消費額の拡大

2 滞在型観光を推進する

■目標に向けたアクション体系

1 宿泊地としての魅力を創出する

- └ ④ライトアップ等による夜の魅力や早朝の魅力の創出
- └ ⑤民泊の推進支援

2 食の充実を図る

- └ ⑥地元食材にストーリーを付すことによる付加価値の向上
- └ ⑦但馬牛・岩津ねぎなど朝来市産の食材を生かしたメニュー拡大
- └ ⑧地酒の活用

■取組状況と今後の予定

課名	令和4年度までの取組状況	現状やKPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
観光交流課	矢名瀬町の2軒の酒蔵のプロモーションや地元食材を活用したグルメ開発を行った。 竹田城跡及び神子畑選鉱場跡のライトアップ事業を実施し、夜の誘客につなげた。	観光消費額の増加に向けて、宿泊を促す取組を行う必要がある。	引き続き、市内の滞在時間を増加させるために、夜の魅力を引き立てる事業・宿泊を伴うイベント、朝来市特有の地域資源を活用した取組を実施する。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標2 魅力ある多様な「しごと」づくり

◆交流人口拡大による経済循環活動の促進

◎観光客一人当たりの観光消費額の拡大

3 観光受け入れ体制を強化する

■目標に向けたアクション体系

1 誰もが安心して訪れることができる環境をつくる

└ ⑨観光ユニバーサルデザインに配慮した取組

2 観光ガイドやおもてなし人材を充実・強化する

└ ⑩高校との連携など若い人材へのアプローチ

└ ⑪観光ガイド人材の確保・育成に向けた取組

└ ⑫市民のおもてなし力向上に向けた取組

■取組状況と今後の予定

課名	令和4年度までの取組状況	現状やKPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
観光交流課	市内の観光ガイドを中心に、おもてなし講座や研修を実施し、観光客を受け入れる体制の強化を図った。	観光ガイド人材の減少やガイド団体の休止があり、ガイド登録者数が減少している。	受入体制を強化に向けて、担い手の確保のため、新たな観光ガイド人材の確保や育成が必要である。ユニバーサルツーリズムの導入の検討を行う。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標2 魅力ある多様な「しごと」づくり

◆交流人口拡大による経済循環活動の促進

◎観光客一人当たりの観光消費額の拡大

4 観光推進体制を強化する

■目標に向けたアクション体系

1 観光推進組織を充実・強化する

- L ⑬観光協会の体制の強化
- L ⑭観光関連団体相互、農林業や商工業等との連携の強化

■取組状況と今後の予定

課名	令和4年度までの取組状況	現状やKPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
観光交流課	令和2年度に朝来市観光協会を設立し、以降職員体制を強化し、様々な業務（施設管理・運営、イベント実施、キャンペーン事業等）を委託した。	観光基本計画のロードマップに基づき推進組織の強化を行い、推進体制を整えた。	朝来市観光協会の強みを活かし、官民学の連携した組織体制の強化を行う。また、令和5年度に朝来市観光協会が法人化されることから、旅行商品の造成など、推進力を強化する。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標2 魅力ある多様な「しごと」づくり

◆交流人口拡大による経済循環活動の促進

◎インバウンド観光の推進

- 1 訪日外国人旅行者の受け入れ体制づくりを行う

■目標に向けたアクション体系

- 1 スムーズに受け入れるための環境を整備する
 - └ ①多言語に対応した看板・パンフレットの作成
 - └ ②多言語対応人材の発掘・活用
- 2 消費活動を促進する環境を整備する
 - └ ③キャッシュレス化の推進

■取組状況と今後の予定

課名	令和4年度までの取組状況	現状やKPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
観光交流課	多言語サイトの運営や観光パンフレットにより、インバウンド向けのPRを展開した。 竹田城跡等において、PayPayを導入し、キャッシュレスに対応した施設整備を行った。	R2年以降、新型コロナウイルスの影響によりインバウンドの来訪者数は激減した。	アフターコロナにおいて、インバウンドが戻りつつあり、また2025年大阪・関西万博を契機とし、市へのインバウンド誘客を積極的に行う。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標2 魅力ある多様な「しごと」づくり

◆儲ける農林畜産業への転換

◎農林畜産業の担い手の確保・育成

- 1 生業としての農林畜産業の担い手を確保・育成する

■目標に向けたアクション体系

- 1 認定農業者など農林畜産業を生業とする人を育成する
 - ①経営能力向上に向けた支援
 - ②農林畜産業者間のネットワークづくり
- 2 新規就農者など新たに農林畜産業を生業にしようとする人を確保・育成する
 - ③就農希望者向けイベントの出展など農林畜産業の魅力の発信
 - ④農家とのマッチング等の研修・相談など自立支援体制の充実
 - ⑤子どもの頃から農林畜産体験など学びの機会の充実

■取組状況と今後の予定

課名	令和4年度までの取組状況	現状やKPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
農林振興課	新規就農希望者向けセミナーに参加し、市の農業や新規就農研修制度を広く周知し、新たな担い手の確保に努めた。	研修を修了した者が雇用就農や新規就農者として認定されるなど一定の効果があったが、目標人数には届かなかった。	経営能力向上のためのセミナーを継続して実施するとともに、研修制度を充実させ、更なる担い手の確保に努める。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標2 魅力ある多様な「しごと」づくり

◆儲ける農林畜産業への転換

◎農林畜産業の担い手の確保・育成

2 農林畜産業に多様な人が多様な関わり方をする

■目標に向けたアクション体系

1 多様な関わり方を創出する

- L ⑥女性などが短時間労働等で農林畜産業に関わる仕組みづくり
- L ⑦高齢者などが軽作業等で農林畜産業に関わる仕組みづくり
- L ⑧副業（複業）などで農林畜産業に関わる仕組みづくり
- L ⑨福祉と連携した農林畜産業の推進

2 新しい農業を支える仕組みをつくる

- L ⑩経営規模拡大・安定に向けた法人化の推進
- L ⑪CSA（地域支援型農業）導入に向けた取組の推進

■取組状況と今後の予定

課名	令和4年度までの取組状況	現状やKPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
農林振興課	女性農業者グループを結成し、地域農業への参画を達成した。	以前より女性農業者数が横ばいとなっている。	女性農業者向けのセミナー等を上手く活用し、更なる人数確保に努める。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標2 魅力ある多様な「しごと」づくり

◆儲ける農林畜産業への転換

◎農業所得向上に向けた取組の推進

1 農産物の販路を拡大する

■目標に向けたアクション体系

1 多様な販路を設ける

- L ①仲介事業者を通さない直販の強化
- L ②地産地消の取組の推進
- L ③海外への販路開拓

■取組状況と今後の予定

課名	令和4年度までの取組状況	現状やKPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
農林振興課	・市内農業関係団体が、規格外品を加工品として出荷し、フードロス削減と収益向上を実現した。 ・新アイテム導入を目的に、「畑わさび」の栽培に挑戦している。	販路はあるが、生産物が足りていないのが現状であり、地域の担い手を中心として、供給量の安定化を目指す。	・効率的な集荷体制や更なる販路拡大が必要だと考えており、地域と協力した生産・流通体制を確立する必要がある。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標2 魅力ある多様な「しごと」づくり

◆儲ける農林畜産業への転換

◎農業所得向上に向けた取組の推進

2 農産物の高付加価値化を図る

■目標に向けたアクション体系

1 競争力のある商品を開発する

- └ ④高校・大学・企業との連携などによる商品開発

2 情報発信力を強化する

- └ ⑤農畜産物や生産者の魅力の発信

3 既存農産物の地域ブランド力を向上する

- └ ⑥高校・大学・企業との連携などによる地域ブランド力の向上
- └ ⑦有機JAS、GAP、HACCP認証取得支援

■取組状況と今後の予定

課名	令和4年度までの取組状況	現状やKPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
農林振興課	企業等との連携により、新特産物（畑わさび）などの試験栽培を実施。また有機農業の発展した考え方であるBLOF理論の勉強会等を実施し、農産物の高付加価値化を推進した。	企業等の連携については目標達成となっているが、有機JAS等の取組については現在未達のため、新たな方向性を出す必要がある。	岩津ねぎを中心とした日本農業遺産認定に向けた取組みを行い、特産物の高付加価値化を目指す。また、オーガニックビレッジ宣言を目指す取組みを実施し、市内の有機への認知を深め、有機農業を推奨していく。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標2 魅力ある多様な「しごと」づくり

◆儲ける農林畜産業への転換

◎生産量拡大や作業負担軽減・低コスト化に向けた新たな農林畜産業の推進

1 生産量拡大や作業負担軽減のための設備・機械の導入拡大を推進する

■目標に向けたアクション体系

1 設備・機械導入の普及を推進する

- L ①設備・機械導入による農作業環境の改善状況の周知
- L ②設備・機械の導入支援

■取組状況と今後の予定

課名	令和4年度までの取組状況	現状やKPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
農林振興課	<p>・農業経営スマート化促進事業や農業生産コスト低減緊急対策事業等を実施し、農業者に対する効果的な機械（設備）導入支援を行った。</p> <p>・市内農業者に対し、2基のビニールハウス設置支援を行った。</p>	<p>・機械のスマート化やコスト低減に資する機械の導入を行い、労働時間の縮減、省力化に寄与した。</p> <p>・大規模ビニールハウス設置については、例年と同数程度の設置を行い、農作物の安定的な生産、出荷に寄与した。</p>	市内農産物の安定的及び効果的な生産を達成するため、今後も継続して事業を行う。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標2 魅力ある多様な「しごと」づくり

◆儲ける農林畜産業への転換

◎生産量拡大や作業負担軽減・低コスト化に向けた新たな農林畜産業の推進

2 新技術の導入検討を行う

■目標に向けたアクション体系

1 大学・企業など研究機関と連携した取組を推進する

- L ③生産量拡大に向けた研究
- L ④農業者と連携した作業の負担軽減に向けた研究
- L ⑤農業者と連携した低コスト化に向けた研究

■取組状況と今後の予定

課名	令和4年度までの取組状況	現状やKPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
農林振興課	生産量の増及び付加価値の高い農産物の生産を目指しBLOF理論学習会を開催した。	現在、若手農家等数人がBLOF理論を実践しており、今後、有機農業取組者の増につながると思料する。	引き続き、BLOF理論学習会を開催することにより有機農業の基盤を醸成しオーガニックビレッジ宣言につなげたい。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標2 魅力ある多様な「しごと」づくり

◆儲ける農林畜産業への転換

◎森林の利活用の推進

1 林業の成長産業化を推進する

■目標に向けたアクション体系

1 森林資源を活用する

- L ①FSC取得認証など建築材としてのブランド化の推進
- L ②ミツマタなど林床植物の商品化
- L ③木質バイオマスの推進
- L ④建築・加工品など木材の地産地消の推進

2 林業の担い手を確保する

- L ⑤林業の魅力の発信
- L ⑥林業フェアへの参加

■取組状況と今後の予定

課名	令和4年度までの取組状況	現状やKPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
農林振興課	未利用材搬出支援事業により、木質バイオマス活用の推進を図った。また、朝来市森林ビジョンを策定し、今後の森づくりの基本方針とアクションプランを定めた。	担い手の確保に向けて新たな取組みが必要である。	令和5年度新規事業である自伐型林業の推進や薪ストーブ等設置促進により、更なる森林資源の活用や担い手の確保を図る。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標2 魅力ある多様な「しごと」づくり

◆儲ける農林畜産業への転換

◎森林の利活用の推進

2 森林が持つ公益的機能の増進を図る

■目標に向けたアクション体系

1 環境資源としての森林を守る取組を推進する

- L ⑦広葉樹林化などの環境林の整備
- L ⑧環境教育の推進

■取組状況と今後の予定

課名	令和4年度までの取組状況	現状やKPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
農林振興課	森林経営管理法に基づく私有林整備（間伐）や、県民緑税事業により手入れ不足の環境が悪化した森林の整備を進めている。	私有林整備は目標値を上回る進捗となっており、引き続き推進していく。	引き続き、私有林整備、県民緑税事業に取り組むとともに、市産材を活用した木育推進にも取り組む。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標3 誰もが希望を持ち、心豊かに安心して暮らせる「まち」づくり

◆地域コミュニティを基盤とした誰にも居場所と役割のあるまちづくり

◎地域特性を生かした地域の主体的なまちづくりの推進

1 多様な主体による主体的・自律的な地域経営を推進する

■目標に向けたアクション体系

1 地域住民の意見が反映される仕組みをつくる

- L ①多様な主体による地域での対話の場づくり
- L ②住民アンケート調査等による地域住民の意見の把握

2 多様な主体が参画する

- L ③地域住民への地域情報の発信
- L ④誰もが自分のできることで参画可能な仕組みづくり
- L ⑤ネット活用等による誰もが参画できる会議手法の導入

■取組状況と今後の予定

課名	令和4年度までの取組状況	現状やKPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
市民協働課	オンライン研修やSNSを使った情報発信の手法等、多様な主体が参加できるこれからの地域づくりについて学ぶ機会を提供した。また、各地域自治協議会のまちづくり計画の見直しをアドバイザーとともに支援してきた。見直しに際し、全住民アンケートの実施や対話の場づくりを取り入れるよう促した。	地域づくりの学びの場や対話の場は提供してきたものの、コロナ禍において地域の事業展開に制限がかかったことにより目標値を下回っている指標も見受けられる。	コロナによる規制制限も解除されたため、今後も引き続き多様な主体が参加できる場を引き続き提供するとともに、内容もブラッシュアップしながら事業展開を図る。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標3 誰もが希望を持ち、心豊かに安心して暮らせる「まち」づくり

◆地域コミュニティを基盤とした誰にも居場所と役割のあるまちづくり

◎地域特性を生かした地域の主体的なまちづくりの推進

2 多様な主体による主体的・自律的な地域経営を支援する

■目標に向けたアクション体系

1 地域の主体的な活動を支援する

- L ⑥地域自治協議会等への必要に応じた伴走型支援
- L ⑦アドバイザーの招へい
- L ⑧多様な市民活動の活動促進支援
- L ⑨市内の多様な主体や多様な活動をつなぐ対話の場づくり

2 地域づくりの学びの場をつくる

- L ⑩地域自治協議会運営等の地域づくりの学びの場の開催
- L ⑪地域リーダー育成に向けた取組

■取組状況と今後の予定

課名	令和4年度までの取組状況	現状やKPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
市民協働課	地域まちづくり計画の見直しを行う地域自治協議会に対して、必要に応じてアドバイザーを招聘し支援してきた。また、3市連携による地域自治協議会向けの研修の開催を行い、これからの地域づくりについて学ぶ機会を提供してきた。	地域づくりの学びの場や対話の場は提供してきたものの、コロナ禍において地域の事業展開に制限がかかったことにより目標値を下回っている指標も見受けられる。	コロナによる規制制限も解除されたため、今後も引き続き多様な主体が参加できる場を引き続き提供するとともに、内容もブラッシュアップしながら事業展開を図る。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標3 誰もが希望を持ち、心豊かに安心して暮らせる「まち」づくり

◆誰もが安心して楽しく暮らせるまちづくり

◎一人一人が地域とつながりを持ち安心して自分らしく暮らすことができる地域共生社会の実現

1 地域での多様なつながりの場をつくる

■目標に向けたアクション体系

1 属性・テーマの横断的なつながりをつくる

- └ ①多様な人が集う複合的な地域の居場所づくり
- └ ②誰もが自分のできることで役割を持つ
- └ ③参加しやすいオープンな場づくり
- └ ④地域内で声をかけ参加しやすい雰囲気づくり
- └ ⑤多様な主体と連携した事業・場づくり

2 属性・テーマごとなど多様なつながりをつくる

- └ ⑥参加しやすい小さな単位の場づくり
- └ ⑦短時間・子連れ参加など誰もが参加しやすい場づくり
- └ ⑧地域の多様な集いの場などの情報発信
- └ ⑨多様性を認め合う地域の雰囲気づくり

■取組状況と今後の予定

課名	令和4年度までの取組状況	現状やKPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
社会福祉課	民生委員・児童委員の活動や役割について啓発を行い、地域での見守り、声掛けを行った。また、コロナ禍における地域での関わり方についても工夫し、地域主体のつながりづくりについて検討した。	民生委員・児童委員の活動や役割について啓発を行っているものの、委員自身もコロナ禍により活動する機会が少なかったことや区長、市民にもまだまだ理解が進むよう啓発する必要がある。	民生委員・児童委員の活動や役割について委員自らが理解するとともに、区長、市民にも啓発を行っていく必要がある。地域の集いの場などの情報発信をしていくことで、地域主体のつながりづくりにつなげていく。
高年福祉課	老人福祉センターや介護予防施設等において各種団体が活動できる場として施設管理を実施した。	管轄する施設において、新型コロナウイルスの影響により利用が大幅に減少した年度に比べると、令和4年度の利活用状況は持ち直しつつあるが、コロナ以前には完全に戻り切っていない。	各施設ともに老朽化が進んでいる状況だが、各施設・設備に関して必要に応じてメンテナンスを施すなど、引き続き各種団体に気持ちよく施設を利用いただくために、適切な管理を行う。
ふくし相談支援課	コロナ感染対策をしながら地域の様々な集いの場を支援し、いきいき百歳体操、地域ミニデイ、認知症カフェ等の活動の場を支援できた。	参加者の高齢化や減少、後継人がいない等で集うことが難しい地区がある。今後は、継続して実施できるよう支援する必要がある。	引き続き多様な地域のつどいの場を支援することで、高齢者等の見守りやつながりづくりを行う。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標3 誰もが希望を持ち、心豊かに安心して暮らせる「まち」づくり

◆誰もが安心して楽しく暮らせるまちづくり

- ◎一人一人が地域とつながりを持ち安心して自分らしく暮らすことができる地域共生社会の実現
 - 2 地域で孤立しがちな方とのつながりをつくる

■目標に向けたアクション体系

<p>1 地域の人・集いの場などをつなげる機会をつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> ⑩地域で孤立しがちな方への声かけ ⑪孤立しがちな方が相談しやすい関係づくり <p>2 多様なつながりのかたちをつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> ⑫事業・行事等に参加しなくても地域の中でつながりを持つ

■取組状況と今後の予定

課名	令和4年度までの取組状況	現状やKPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
社会福祉課	民生委員・児童委員や朝来市社会福祉協議会の活動をとおして地域のつながりを支援した。また、ひきこもり自立支援委託業務による、ひきこもりの居場所を2箇所を増やすとともに、訪問支援の実施により支援の充実を図った。	ひきこもり自立支援委託業務によるひきこもりの居場所を2箇所に増やすことで、状況によった多様な社会参加の場の確保を図った。	民生委員・児童委員や朝来市社会福祉協議会の活動をとおして、孤立しがちな方への声かけ、相談しやすい関係づくりを支援していく。また、ひきこもりの支援としては居場所に参加できない方に訪問支援を実施していく。
高年福祉課	地域での高齢者の健康づくり活動のため老人クラブの活動に対する補助を実施し、支援を行った。	クラブ数、会員数ともに前年度に比べ減少している。(クラブ数69→66 会員数2,477人→2,326人) 老人クラブの衰退は、地域社会の人間関係の希薄化が進行している昨今、地域社会の活力の減退にそのままつながりかねず、活動の活性化及び次世代への継承は、老人クラブに課せられた最重要課題である。	クラブ数や会員数の減少は、就労年齢の高齢化に加え、ライフスタイルの変化など様々な問題が考えられるが、老人クラブが地域コミュニティを維持する上で極めて重要な位置づけであることを踏まえ、引き続き、活動に対する補助を実施するとともに、クラブの衰退に歯止めをかけるべく、ステークホルダーと連携し、今後の老人クラブの在り方、方向性等について合意形成を図る必要がある。
ふくし 相談支援課	一人ひとりを支える個別支援会議(向こう三軒両隣会議 R4年度68回)を開催し、具体的な声掛けや支援方法が地域に理解された。高齢や障害などにより、暮らしに困難を抱えた人が地域のつながりの中で暮らし続けられるよう支援した。	向こう三軒両隣会議を繰り返すことで地域の理解と支え合いの推進につながっている。 また、R4年度の介護予防・日常生活圏域ニーズ調査では、65歳以上の高齢者で地域づくり活動に参加したいと回答した人は63%で、今後さらに見守りなど地域のつながりづくりの推進に協力を求めたい。	引き続き、向こう三軒両隣会議への地域住民の参加をすすめる。 また、社会福祉協議会の生活支援コーディネーターと連携して、多様なつどいの場による支え合いを推進する。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標3 誰もが希望を持ち、心豊かに安心して暮らせる「まち」づくり

◆誰もが安心して楽しく暮らせるまちづくり

◎在住外国人など多様な人が安心して暮らすことができる多文化共生社会の実現

1 在住外国人などの暮らしの困りごと等を把握する

■目標に向けたアクション体系

1 在住外国人の困りごとを把握する

└ ①在住外国人との対話の場づくり

2 企業や地域住民の困りごとを把握する

└ ②企業や地域住民との対話の場づくり

■取組状況と今後の予定

課名	令和4年度までの取組状況	現状やKPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
人権推進課	市内在住外国人対象の日本語教室において、学習者と支援者との交流を継続した。	新型コロナウイルス感染拡大により、交流事業などが実施できない状況であった。	日本語教室の開催場所を2か所に拡充し、交流イベントなどにより在住外国人と地域住民との交流を促進する。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標3 誰もが希望を持ち、心豊かに安心して暮らせる「まち」づくり

◆誰もが安心して楽しく暮らせるまちづくり

◎在住外国人など多様な人が安心して暮らすことができる多文化共生の実現

2 まちの情報を在住外国人に伝える

■目標に向けたアクション体系

1 多言語対応による情報発信を行う

- L ③日常の暮らしに必要な情報の多言語化
- L ④災害時の対応方法や防災情報などの多言語化

2 在住外国人とのコミュニケーションを促進する

- L ⑤日本語教室の開催
- L ⑥在住外国人が参加できるイベントの開催

■取組状況と今後の予定

課名	令和4年度までの取組状況	現状やKPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
人権推進課	ホームページにおいて日本語教室を紹介した。 日本語教室を市内2か所に広げるための調査検討を実施した。	新型コロナウイルス感染拡大により、交流事業などが実施できない状況であった。	在住外国人のための生活支援ガイドを作成する。 日本語教室を拡充し、交流イベントを実施する。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標3 誰もが希望を持ち、心豊かに安心して暮らせる「まち」づくり

◆誰もが安心して楽しく暮らせるまちづくり

◎在住外国人など多様な人が安心して暮らすことができる多文化共生の実現

3 在住外国人と地域の人とのつながりをつくる

■目標に向けたアクション体系

1 互いの文化を理解する

- L ⑦在住外国人が日本文化を学ぶ場づくり
- L ⑧外国の文化を学ぶ場づくり

2 居住地でのつながる場をつくる

- L ⑨企業と連携による在住外国人の地域行事への参加促進

■取組状況と今後の予定

課名	令和4年度までの取組状況	現状やKPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
人権推進課	フランス・バルビゾン村へ市民訪問団を派遣した。 日本語教室において学習者と支援者が交流を行った。	新型コロナウイルス感染拡大により、交流事業などが実施できない状況であった。	フランス・バルビゾン村をはじめとする友好都市との交流、日本語教室における在住外国人と地域の人交流を促進する。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標3 誰もが希望を持ち、心豊かに安心して暮らせる「まち」づくり

◆誰もが安心して楽しく暮らせるまちづくり

◎誰もが生きがいを感じ健やかで幸せに暮らすことができる健幸づくりの推進

1 健幸づくりへの意識の向上を図る

■目標に向けたアクション体系

1 健幸づくりに対する普及啓発を推進する

- L ①地域・学校・職場での健康教室の開催
- L ②健幸づくりポイント事業を活用した啓発の推進

■取組状況と今後の予定

課名	令和4年度までの取組状況	現状やKPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
健幸づくり 推進課	<p>・地域自治協議会との協働による健康教室は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、未実施となった。</p> <p>・市内の事業所で働く世代への健康づくりの支援として、ストレス・疲労度測定と結果説明を経年で実施している。自身の現状を知り、生活習慣の見直しをすることで、結果が改善される。「自分の健康は自分でつくる」一環として運動の継続実施に向け、健康づくりに関するリーフレットに加え健幸づくりポイントカレンダーの配布も行った。</p> <p>・健幸づくりポイント事業は、運動を始めるきっかけ作りとその習慣化や定期的な健（検）診の受診、生活習慣の見直し等の機会になっていると考える。全ての地域自治協議会と連携し、参加様式の配布と貯めたポイントの寄附・交換申請の窓口を担ってもらっている。寄附・交換申請者は年々増加してきている。地域自治協議会に対し寄附されたポイントは、地域における健康づくり事業に貢献していると考ええる。</p>	<p>・地域等での健康教室開催は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、未実施となった。職場での健康教室も独自開催に向けた支援を行ってきたが、感染症拡大以降未実施となっている。</p> <p>・健幸づくりポイント事業は、個人に加え、地域や市内事業所等でも継続した取組みがされ、ポイント寄附・交換申請者は、年々増加している。健幸づくりカレンダーの配布とポイントの寄附・交換申請は、本庁、各支所、生涯学習センター、各地域自治協議会でも行っており、協力体制がとれている。令和4年度の申請者965人の内70歳代が最も多く、60歳代以上が約7割である。寄附・交換については、ごみ袋（大・小）への交換希望者が多い。20歳代・30歳代等の若い世代の取組み促進に向けて、本事業の在り方を含めた検討をする必要がある。</p>	<p>・地域や職場等での健康教室は、感染症流行の影響を受けるため、地域や学校・事業所等と実施について協議しながら、計画していく。</p> <p>・幅広い年代の人が取り組みやすいよう、令和4年度からは健幸づくりカレンダーをホームページからダウンロードして入手できるようにした。利用者は、10人とわずかである。事業の継続とともに、ポイントの寄附・交換申請方法を検討していく。市内事業所が職員の健康管理の一環として取り組んでいただけるよう、機会あるごとに周知をしていく。</p>

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標3 誰もが希望を持ち、心豊かに安心して暮らせる「まち」づくり

◆誰もが安心して楽しく暮らせるまちづくり

◎誰もが生きがいを感じ健やかで幸せに暮らすことができる健幸づくりの推進

2 疾病・介護予防や健康増進の取組を推進する

■目標に向けたアクション体系

1 多様な主体による健康増進の取組を推進する

- L ③家庭・地域・職場での健康づくり活動の推進
- L ④子どもから大人までの食育の推進
- L ⑤ウォーキングなど地域での運動習慣づくりの推進
- L ⑥定期的な健診（検診）受診の推進
- L ⑦医療費分析による効果的な疾病予防活動の推進

2 家庭・地域での介護予防の取組を推進する

- L ⑧あさごいきいき百歳体操等による地域での介護予防の推進
- L ⑨地域ミニデイの開催等による高齢者のお出かけの機会の創出

■取組状況と今後の予定

課名	令和4年度までの取組状況	現状やKPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
健幸づくり 推進課	<p>・健康教室は医師講話を撮影し、CATVで放送した。健診結果で保健指導希望者に教室案内を送付するなど勤奨者の見直しをすることで、参加者の増加があった。</p> <p>・健診（検診）は、関係機関と連携して感染症対策を行い、安全・安心に受診できるよう配慮するとともに、市のSNSやCATV等を活用し受診勧奨を積極的に行った。特定健診やがん検診など受診者数は増加した。</p> <p>・食育として、食に関する基礎知識や望ましい食生活について、広報やCATV、ホームページ、SNSなどで、周知・啓発を行った。また、こども育成課、給食センターと連携し、切れ目のない食育が推進できるよう協議・検討の場として庁内打合せ会を3回実施した。</p> <p>・自分の体力にあった運動を実践しその習慣化により、健康づくりができるように、きっかけづくりとして健幸づくりポイント事業を実施している。</p> <p>・運動効果が高まるようなコースを設定し、そのコースを活用したウォーキング教室やノルディックウォーク体験教室を開催している。</p>	<p>・家庭・地域での健康づくりの支援の一環として、いずみ会活動の推進といずみ会リーダー養成講座を開催しているが、感染症拡大の影響を受け、未だ活発な活動は実施できていない。</p> <p>・食育推進を目指した映像を作成し、CATV、公式SNSでの配信を実施。視聴者の状況が把握し辛い状況がある。</p> <p>・健康効果検証を行ったウォーキングコースを活用したウォーキング教室及びノルディックウォーキング教室を開催することで、運動効果が高いコースの条件を体験することにつながっている。</p> <p>・健診（検診）受診率は増加傾向～横ばいである。若年者を対象としたインターネットでの追加申し込みは、反響があったことから、今後、申し込みやすい環境設定の必要性を感じる。</p>	<p>・健康教室は医師会・歯科医師会と連携をとりながら推進している。医師講話、栄養講座を集合型で実施する。希望者の他、勤奨者を工夫し健康づくりに参加する人を増やしていく。地域や学校・職場等とも内容や実施方法について検討していく。</p> <p>・健診（検診）は、受診率向上に向けた受診勧奨の方法や受診費用補助等について検討するとともに、申込みしやすい環境を整備するためオンラインでの申込みができるよう実施に向けて検討していく。</p> <p>・食育については、庁内打合せ会議等、関係部署と連携をとりながら、切れ目のない食育の推進にむけて協議・検討、実践していく。また、食育情報を発信する際は、わかりやすく、家庭でも取り入れやすい内容を検討し、情報発信を行っていく。</p> <p>・令和3年度に作成したウォーキングマップの配布と、合わせてホームページやケーブルテレビでコースの紹介を継続して行っていく。また、コースを活用したウォーキング教室等を継続実施し、参加された市民の方に広めてもらうことで市民の運動習慣づくりに繋げていく。</p>
ふくし 相談支援課	<p>地域の高齢者が主体的に介護予防に取り組むいきいき百歳体操や地域ミニデイはコロナ禍により活動が減少したが、感染予防に配慮しながら行う体操など地域の集いの場が再開できるよう支援を行った。</p>	<p>いきいき百歳体操は市内の半数以上の地区で実施でき大きな伸びがあったことは成果である。コロナ禍により活動の変化が大きかったが概ね目標が達成した。</p>	<p>高齢者が主体的に予防活動に取り組めるよう、引き続き集いの場を支援するとともに、活動再開が困難な地域に対しては支援を強化する。</p>

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標3 誰もが希望を持ち、心豊かに安心して暮らせる「まち」づくり

◆まちづくりや市民の暮らしを支えるための連携の強化

◎地域間連携・政策間連携などによる効果的・効率的な事業の推進

1 市内の多様な主体相互の連携による事業推進を展開する

■目標に向けたアクション体系

1 互いの得意分野を生かしあう関係性を構築する

- L ①多様な主体がつながる場づくり
- L ②地域自治協議会相互の連携
- L ③地域と学校の連携
- L ④地域と企業の連携
- L ⑤企業と行政の連携

■取組状況と今後の予定

課名	令和4年度までの取組状況	現状やKPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
市民協働課	市内11地域自治協議会の連絡会議、3市連携事業による研修会や意見交換会を開催し、地域自治協議会の相互連携や近隣市との連携を促進した。	地域づくりの学びの場や対話の場は提供してきたものの、コロナ禍において地域の事業展開に制限がかかったことにより目標値を下回っている指標も見受けられる。	コロナによる規制制限も解除されたため、今後も引き続き多様な主体が参加できる場を引き続き提供するとともに、内容もブラッシュアップしながら事業展開を図る。
学校教育課	各学校に学校運営協議会を設置し、保護者や地域住民が学校運営に参画し、学校・家庭・地域の連携・協働により地域全体で子どもたちを見守り、育てる取組ができた。令和4年度には各学校運営協議会委員による情報交換会を開催し、学校運営協議会の取組の充実・発展を図ることができた。	各学校で学校運営協議会を開催し、保護者や地域住民が学校運営等に参画し、学校・家庭・地域の連携・協働により地域全体で子どもたちを見守り、育てる取組ができた。	今後も各学校運営協議会委員による情報交換会を開催し、学校運営協議会の取組の充実・発展を図る。また、児童生徒の意見が反映される機会を作る。学校運営協議会の活動についてホームページにより周知し、地域との協働による学校づくりに取り組んでいく。
経済振興課	・事業所周辺のごみ拾い等、自発的な環境美化への取組み。 ・多様な働き方に資する取組みとして、お仕事大相談会への参加。	事業所周辺のごみ拾い等、企業の社会的責任（CSR）に市内事業所が取組んでいる。 多様な働き方に資する取組みとして、お仕事大相談会に多数の事業所が参加している。	市民社会の一員として、企業にも社会貢献活動に協力いただくよう、取組みを進める。 女性活躍推進を市全体の取組みと捉え、市内事業者にも推進する。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標3 誰もが希望を持ち、心豊かに安心して暮らせる「まち」づくり

◆まちづくりや市民の暮らしを支えるための連携の強化

◎地域間連携・政策間連携などによる効果的・効率的な事業の推進

2 市外の多様な主体との連携による事業推進を展開する

■目標に向けたアクション体系

1 広域的なプロジェクト実施のための関係性を構築する

- L ⑥観光・交通等施策分野の連携
- L ⑦但馬地域・福知山市・丹波市など生活圏域の連携

2 互いの得意分野を生かしあう関係性を構築する

- L ⑧大学・専門職大学等との連携

■取組状況と今後の予定

課名	令和4年度までの取組状況	現状やKPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
総合政策課	<p>但馬地域では豊岡市を中心市とした第3次但馬定住自立圏共生ビジョンを策定している。</p> <p>また、隣接する福知山市・丹波市と連携し、共通する地域課題の解決に向けた取組を進めるとともに、交付金の採択に向けて3市連携でめめている。</p> <p>また、福知山公立大学、芸術文化観光専門職大学と連携し、人材育成事業等に取り組んでいる。</p>	<p>それぞれの連携の特徴を活かしながら、連携を行うことで、効果的・効率的な事業推進を展開できている。</p> <p>採択を受けている交付金事業については、より効果的な活用となるよう、計画的な事業推進が必要である。</p>	<p>引き続き、それぞれの特徴を活かし、但馬定住自立圏や隣接する福知山市・丹波市との連携、大学連携等を進める。</p> <p>採択を行けている交付金事業については、3市連携の方向性をもとに、計画的に事業計画をたて、事業を推進する。</p>
観光交流課	<p>山城サミット連絡協議会、日本遺産「銀の馬車道・鉱石の道」推進協議会、HYOGO Medioフィルムコミッションなどの広域連携での観光推進を図った。</p> <p>またR3年度に開学した芸術文化観光専門職大学との連携を進めた。</p>	<p>左記の団体をはじめとした各種関連団体と連携した観光施策を展開した。</p>	<p>引き続き、左記の団体をはじめとした各種関連団体と連携した観光施策を展開し、観光誘客に取り組む。</p>

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標3 誰もが希望を持ち、心豊かに安心して暮らせる「まち」づくり

◆まちづくりや市民の暮らしを支えるための連携の強化

◎持続可能な地域公共交通による安心した暮らしの実現

1 多様な主体が連携・協働する

■目標に向けたアクション体系

1 公共交通の利用を促進する

- └ ①地域・交通事業者と連携した利用促進に向けた取組の推進
- └ ②バス待ち環境の整備

2 公共交通への理解を深める

- └ ③地域・学校等と連携した学びの場づくり

3 公共交通事業者の担い手を確保する

- └ ④学校等と連携した企業の魅力発信等による担い手の確保

■取組状況と今後の予定

課名	令和4年度までの取組状況	現状やKPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
総合政策課	<p>令和4年度は「公共交通対策元年」として、①地域公共交通に対する意識の醸成・②地域の実情に応じた新たな移動手段の導入に向けた検討・③JR播但線をはじめとする地域公共交通の利用促進の3本柱で取組を進めた。</p> <p>目標に向けたアクション体系では、「3 公共事業者の担い手を確保する」取組が不十分であったことから、効果があがる手法等について引き続き検討を行う。</p>	<p>利用促進については、一過性の取組ではなく継続していくことが何より重要である。</p> <p>また、新たな利用促進に向けた取組や移動手段を導入することにより、持続可能な公共交通体系の構築と安心して免許返納できるような環境を目指す必要がある。</p>	<p>引き続き、3本柱に沿って施策展開を図るとともに、効率的かつ持続可能な公共交通体系へ移行することにより、担い手確保の取組も併せて推進する。</p>

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標3 誰もが希望を持ち、心豊かに安心して暮らせる「まち」づくり

◆まちづくりや市民の暮らしを支えるための連携の強化

◎持続可能な地域公共交通による安心した暮らしの実現

2 新たな移動手段の導入・検討を進める

■目標に向けたアクション体系

1 地域特性に応じた移動手段の導入・検討を進める

- L ⑤先進技術導入に向けた研究
- L ⑥地域特性に応じた効率的な移動手段の導入（実証実験含む）

■取組状況と今後の予定

課名	令和4年度までの取組状況	現状やKPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
総合政策課	令和4年度は、生野地域内でデマンド型乗合交通の実証実験を行った。	概ね計画どおり進捗している。	社会実験の結果や令和5年度に実施する市民アンケート等を踏まえ、本市にあった形の新しい移動手段の導入を目指す。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標3 誰もが希望を持ち、心豊かに安心して暮らせる「まち」づくり

◆まちづくりや市民の暮らしを支えるための連携の強化

◎市民の多様な活動や暮らしを支えるための公共施設の適正配置

1 暮らしや活動に応じた利用しやすい公共施設にする

■目標に向けたアクション体系

- | |
|--|
| <p>1 公共施設の適正配置について理解を深める</p> <ul style="list-style-type: none"> L ①多様な主体による対話の場づくり <p>2 公共施設の有効活用に向けた環境をつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> L ②公共施設の利用に係る周知啓発・利便性向上への取組 L ③長寿命化に向けた適正な管理の推進 L ④利用実態にあわせた施設の機能の見直し |
|--|

■取組状況と今後の予定

課名	令和4年度までの取組状況	現状やKPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
総合政策課	<p>令和3年3月に策定した公共施設再配置計画に基づき、公共施設マネジメントの取組を推進した。</p> <p>令和4年度には、公共施設再配置計画において維持・長寿命化の方針が出された施設の予防保全計画を策定した。</p>	<p>公共施設再配置計画策定の際にはワークショップ等を開催し、対話の場を設けることができたが、マネジメントの段階では総括課としては開催が難しい。</p> <p>一方で施設担当課による個別施設に係る利用者への説明等は行われている。</p>	<p>公共施設再配置計画に基づく、公共施設マネジメントの取組を推進するために、引き続き周知活動を行っていく。</p>

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標3 誰もが希望を持ち、心豊かに安心して暮らせる「まち」づくり

◆まちづくりや市民の暮らしを支えるための連携の強化

◎市民の多様な活動や暮らしを支えるための公共施設の適正配置

2 公共施設の持続可能な運営を行う

■目標に向けたアクション体系

1 公共施設にかかるコストを削減する

- L ⑤利用者の適正な負担（利用料の見直し）
- L ⑥公共施設の総量の縮減に向けた取組の推進

■取組状況と今後の予定

課名	令和4年度までの取組状況	現状やKPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
総合政策課	使用料の見直しについては、施設類型毎の使用料改定の方向性を令和3年度に取りまとめる等、改定に向けた事務を進めた。 また、公共施設再配置計画に基づき、公共施設マネジメントの取組を推進した。	使用料の見直しについては、改定に向けた取組を進めることができた。 公共施設の総量縮減についても、公共施設再配置計画に基づき、少しずつではあるが進んでいる。	使用料の見直しについては、令和5年度中の使用料改正条例の上程に向けて、引き続き事務を進めていく。 また、公共施設再配置計画に基づき、公共施設マネジメントの取組を推進していく。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標3 誰もが希望を持ち、心豊かに安心して暮らせる「まち」づくり

◆まちづくりや市民の暮らしを支えるための連携の強化

◎生物多様性の保全と持続可能な利用による自然共生社会の実現

1 生物多様性について市民一人一人が理解を深め、意識を持ち生活する

■目標に向けたアクション体系

1 朝来市の生物多様性の実態を把握する

- └ ①多様な主体と連携し希少野生植物の生息・生育状況の調査
- └ ②朝来市レッドデータブックの作成

2 生物多様性の保全に向けた活動を推進する

- └ ③保全・持続可能な利用に向けた生物多様性戦略策定
- └ ④オオサンショウウオ・コウノトリ保全に向けた活動
- └ ⑤生物多様性の保全に向けた活動
- └ ⑥保全に向けた活動団体等の育成
- └ ⑦生物多様性など自然と共生する農林畜産業の推進

3 生物多様性への理解を深める機会をつくる

- └ ⑧環境教育プログラム等理解を深めるためのプログラムづくり
- └ ⑨地域・学校等での生物多様性について触れる場・学びの場づくり
- └ ⑩生物多様性を学ぶ観光体験プログラムの展開

■取組状況と今後の予定

課名	令和4年度までの取組状況	現状やKPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
市民課	地域・学校等での生物多様性について触れる場・学びの場づくりのため各主体が環境学習を実施したほか市内小学校において環境微生物マイエンザの出前授業を行った。	環境学習の実施回数が少ない状況である。通常の出前講座のみでは不十分であると思われる。	今後の生物多様性地域戦略策定に向けて、生き物調査などを各小学校単位に行う予定としており、通常の出前授業とあわせて実施し目標値を達成していく。
文化財課	・市内河川のオオサンショウウオ生息調査とともに、生息可能エリアを幅広く把握するための生息基盤調査を与布土川で実施した。 ・第17回日本オオサンショウウオの会・朝来大会の開催した。 ・朝来市黒川自然環境基本構想を策定し、黒川本村に自然環境保護施設の整備方針を定めた。	・第17回日本オオサンショウウオの会・朝来大会には、全国から3日間で延べ750名の参加があった。市内からも生野高校、生野中学校による研究発表、与布土地域の取組み紹介などもあり、約100名の参加があった。 開催に伴い地域の関心も高まったことで、オオサンショウウオ出前講座は、15回となった。	・令和4年度は全国大会を開催したことにより地域のオオサンショウウオへの関心が高まった。これを一過性のものとしないうちに、自然環境基本構想にて定めた自然環境保護施設の整備に向けて取り組むとともに、オオサンショウウオの保護、普及啓発へ向けた関係機関との情報共有、地域住民との調整を強化していく必要がある。
農林振興課	多様な生き物を育み、コウノトリも住めるゆたかな文化・地域・環境づくりを目指すための「コウノトリ育む農法」の拡大に取組んだ。生き物が生息しやすい環境づくりのために、冬に水を張る「冬季湛水」、育苗段階からの有機質肥料の使用、無農薬または減農薬での安全・安心な栽培を推奨。	コウノトリ育む農法での栽培は雑草除去や病害虫対策が困難であるため、現状では目標とする耕作面積には達成できなかった。今後雑草・病害虫防止のための栽培技術向上や労力削減が課題である。	新たな栽培技術であるBLOF理論（高品質・高収量・高栄養）を推奨し、雑草や病害虫対策を行い、減農薬や無農薬栽培である「コウノトリ育む農法」の耕作面積拡大を図り、環境に優しい地域づくりを推進していく。
観光交流課	体験素材集（内、生物多様性を学ぶ等の自然体験プログラム数3）を作成し、観光として自然を体験してもらえようコンテンツの開拓を行った。	関係団体との連携を図りコンテンツの開発を行ってきた。	引き続き生物多様性を学ぶプログラムを観光コンテンツとして展開し、新たなコンテンツの開拓を行う。